

学生による主体的な地域での実践活動支援 令和5年度採択団体一覧

	団体名	プロジェクト名	採択事業種別	ページ
1	自然史探偵団	自然史標本の保存・技術者育成に向けた活動と 博物館施設の活性化	NEXT STEP工房 活動プログラム	2
2	岩手大学経済研究室 水産部	岩手県三陸地域の漁村コミュニティの振興	NEXT STEP工房 活動プログラム	3
3	らくのうの夢	小さな酪農家さんの魅力を伝える	NEXT STEP工房 活動プログラム	4
4	三陸委員会ここより	三陸の今を伝える	NEXT STEP工房 活動プログラム	5
5	彩景プロダクション	ごま摺り団子×岩手大学 岩手県一関市の歴史的農村を食から応援プロジェクト	NEXT STEP工房 活動プログラム	6
6	岩手大学クラフトビール部	ビール麦国産化推進プロジェクト ～岩手から全国へ～	NEXT STEP工房 活動プログラム	7
7	岩手大学クラフトビール部	つなぐ！ビール麦県産化プロジェクト	NEXT STEP工房 活動プログラム	8
8	同じ釜の匂いを食う	浜のおかあさん達に学ぶ！ 郷土料理勉強会&上田学食における釜石魚定食の提供	NEXT STEP工房 活動プログラム	9
9	まちづくりサークルNPCN	盛岡の魅力を伝えるプロジェクト	NEXT STEP工房 活動プログラム	10
10	岩手大学卓球部	卓球でつながる！	NEXT STEP工房 活動プログラム	11
11	LiveStock研究会	教えてジャージーさん ～実験牛から次世代の畜産～	Let'sびぎんプロジェクト	12
12	環境マネジメント学生委員会	E=Wind Project	Let'sびぎんプロジェクト	13
13	GANDAI HOMESPUN	GANDAI HOMESPUN ～岩大のひつじの毛を紡ぐ～	Let'sびぎんプロジェクト	14
14	工学GRILS	環境問題をサイエンス教室で伝えたい！	Let'sびぎんプロジェクト	15
15	さんもり	積み上げよう！盛岡城アート	One+	16

1. 自然史探偵団

[報告動画](#) (岩手大学 公式 Youtube)

岩手県における自然標本の保存と博物館施設の活性化

自然史探偵団

結論

博物館が主催する標本作成自主練習会に参加し、様々な動物での標本作成方法を学んだ。

また、博物館や地域団体と協力しながら南三陸ワークショップとうしはくミニ探検隊などでのコーナーの企画および運営という形で子供達に自然史分野の普及活動を行った。

1.目的

岩手県の豊かな自然を残していくため博物館による標本の採集・蓄積は有効である。しかし岩手県には自然史標本を扱う博物館が少ない。この原因として、標本作成の専門知識を持つ人が少ないこと、小規模の博物館では資料化に充てられる予算が少ないことなどが考えられる。

この問題の解決の一助となるため、標本作成の技術の共有と研鑽、若い世代を対象とした自然史分野の普及活動をするを目的として活動を行っている。

2.活動内容

(1)第14回南三陸子ども自然史ワークショップ2023

概要: 南三陸ネイチャーセンター友の会主催、南三陸町教育委員会が後援として南三陸町自然環境活動センターで毎年開催される、未就学児～小学生を対象としたワークショップである。

企画: 今回私たちは「これで君もいきもの博士!!」と題して子供達に南三陸周辺に生息している動物を中心として、陸棲/海棲生物を神経衰弱形式で学べるコーナーを運営した。

内容: 同じ動物の絵を描いた1対のカードを作る。片方には動物の名前が書かれており、もう一方にはその動物の特徴や、その動物に特異的にみられる行動などがひとつ書かれている。参加者は動物の名前と特徴を予想してカードを選び、裏返して絵を確認することで正誤がわかるようになっている。



南三陸子ども自然史ワークショップのチラシと企画の様子

(2)あそんでまなぼう! うしはくミニ探検隊2023

概要: 奥州市牛の博物館が主催して毎年牛の博物館で行われる、牛について学ぶための子ども向けワークショップである。2024年はCOVID19の影響で開催するコーナーの数を減らしての「ミニ」開催となった参加者は例年通りだった。

企画: 今回私たちは「ならべてピッタリ ホネパズル」と題して牛の骨格がヒトとどのように違うのかを学べるプログラムを実施した。

内容: 最初に牛の骨格の絵とヒトの骨格標本を用いて肘と踵のいちの違いを説明する。その後、薄く牛の骨格が描かれている台紙とピースになる紙を配布し、最初の説明を確認しながらパズルを作る。マジックテープで台紙とピースを合わせるため、家に帰ってからでも遊ぶことができる。

(3)解剖自主練習会

概要: 奥州市牛の博物館が主催する地域でのワークショップで、団員は自身の標本づくりの技術の研鑽のために自主的に参加している。

内容: 交通事故や衝突事故で亡くなった哺乳類や鳥類の遺体を用いて標本づくりの練習をする。作った標本は牛の博物館に收藏される。

3.反省と課題

目的のうち、標本作成技術の向上については各個人の自主的な活動になってしまったことが大きな反省点である。今までの活動場所が改修工事で使えなかったこともありましたが、2025年からは使えるようになったため今後は、団体での勉強会も開いていく。

また、普及活動や自己研鑽を充実させるために今までもより交流の幅を広げる必要がある。ワークショップにはいろいろな団体が参加しているため、積極的に連携をとって来年度以降の活動の活動に活かしたい。



うしはくミニ探検隊のチラシと企画の様子

2. 岩手大学経済研究室水産部

報告動画 (岩手大学 公式 Youtube)

ウニ蓄養

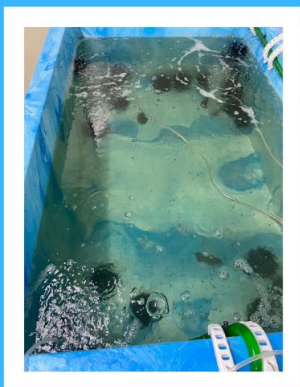
～今年度の活動報告と今後の展望～

岩手大学経済研究室水産部

(活動背景)

岩手県宮古市田老地区では、地球温暖化等の海洋環境の変化により、極端にウニが増殖、海藻を食べ尽くしてしまう磯焼けが全国的に発生しています。そして、同じく海藻が餌のアワビの数が減少、また増殖したウニも実入りの少ないものばかりになっています。また、震災後の漁業収入の減少+高齢化による深刻な人手不足により漁村存続が危機的状態です。

そこで、高級食材のウニをうまく活用できれば、磯焼けの解消と漁家の収入向上結果として漁業人口も増え、漁村の存続が可能になると考えました。



(今年度の活動)

① 内陸部でのウニ蓄養

実入りは良かったのですが、味にばらつきがあり、まだ、市場に出荷は難しい状態です。

引き続き蓄養を続け、実入りや味の向上を目指します。

② 飲食店・鮮魚店ヒアリング

盛岡の飲食店・鮮魚店にヒアリングを行い、ウニの需要について調査しました。その結果、どのお店でも特に国産ウニに対する需要を確認できたため、今後の販路獲得が期待できます。

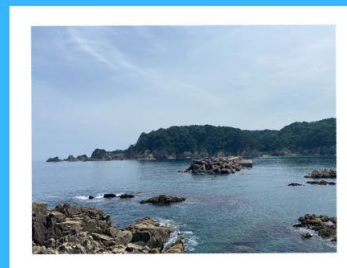
(今後の展望)

① 蓄養マニュアル作成

実際に蓄養装置の導入を進めるには、どの程度実施にお金と手間がかかるのかを丁寧に伝える必要があるため、必要物資や費用、注意点などをまとめたマニュアルを作成予定です。

② 蓄養ウニの普及活動

田老地区においても蓄養ウニを知っている人はごく僅かです。田老漁協と協力しながら、内陸と沿岸を蓄養ウニで繋ぎたいと考えています。



3. らくのうの夢

報告動画 (岩手大学 公式 Youtube)



岩手県の酪農

岩手県には、酪農業界での生き残りをかけて、また、未来を見据えて挑戦している生産者がいます。最終的には、そんな生産者さんと私たち消費者を繋げる活動ができればと考えています。美味しいたべものには理由がある。食べるのが好きだからこそ、もっと色々知りたいなと思っています。変なひとが多くてたのしいよ。私は変じゃないけど。

交流会では八幡平市の農家の方の力を借りながら、小学生二名を対象とした牛舎の見学や、交流会に関わった人全員でのお昼ご飯などを企画しました!牛舎では牛のお絵かきをしたり、移動中の車内ではバターを作ったりと小学生に楽しんでもらえるような内容を考えました!交流会の終盤には、参加した小学生、協力していただいた農家の方、大学生の全員がお互いに打ち明け合うことができました!

文化祭ではチーズケーキを販売しました!

まずは私たちの活動を知っていただき、さらにその奥にある酪農の魅力や現実が届けられたら、そんな思いから文化祭へ参加しております。原料にもこだわりました。低温殺菌牛乳を使用してチーズから作り、また、卵は鶏へのストレスが少ない環境で育てられたものを選びました。微力ながら酪農に少しでも興味を持っていただく機会を作れたことが何より嬉しく、沢山の感謝でいっぱいでした!

一番盛り上がりを感じたチーム内イベントが、チーズパーティでした!様々なチーズとそれに合うパンや生ハム、ワインなどを用意して、顧問の先生も含めみんなで純粋にチーズを堪能しました!様々なチーズを一度に楽しめたおかげで、風味や食感の比較ができ、また新たなチーズとの出会いもあり、より一層チーズを好きになれた機会でした!

目的

私たちは「小さな酪農家の魅力を広める」ことをテーマに、酪農や牛乳に関する情報を発信してたくさんの方々に「酪農」への興味を持ってもらえるように活動しています。難しそうだったり興味が湧きにくかったりするように思えますが、活動内容としては、酪農に携わる様々な方との交流会や勉強会(食事会や試食も)、チーズケーキの製作やSNSを通じた広報活動などが主な取り組みとなっています!



～交流会の様子～

晴香

やっぱりチーズなんですよ、。

好きな乳製品：マンスターチーズ

もっと多くの人に食のありがたみを感じて欲しいです!

好きな乳製品：モッツアレラ、エダムチーズ

瀬菜

りゅう

チーズは原料だけでなく、作った人の個性が表れるおもしろい食べ物です。ぜひ、いろんなチーズを食べ比べてみてください

好きな乳製品：コンテチーズ

チーズひとつとっても色々な種類がありとっても奥深いんです!!

好きな乳製品：チェダーチーズ

流華

日白

普段口にするチーズについて、どんな牛乳から作られたのだから?その動物は、どんな生活をしているのだから?ちょっとでも気にしてもらえたら嬉しいです。

好きな乳製品：半石チーズ工房さんの「岩鷲」、田野雄 山地酪農さんの「白仙」。めっちゃうまいよ

現代人にはチーズが足りてない!

好きな乳製品：フロマージュ

悠人

4. 三陸委員会ここより

[報告動画](#) (岩手大学 公式 Youtube)



三陸委員会 ここより 令和5年度 活動報告

三陸委員会ここよりとは

「三陸の今を伝える」という活動方針のもと、お祭り協力、研修旅行、三陸地域の課題を学び・考える機会づくりなど、多様な状況の変化に応じ、さまざまな活動を行っています。

震災学習 (6月)

実際に震災を経験した方からお話を伺い、震災について考え、意見交換を行いました。

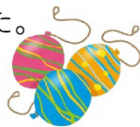
研修旅行 (7月)

陸前高田市 (アバッセ高田、市立博物館、TUNAMIメモリアル) を訪問し、当時の被害状況や復興の様子、陸前高田市の魅力について学びました。



南青山アパート夏祭り (8月)

南青山アパート災害公営住宅の夏祭りで、子どもたちに楽しんでもらえるよう、縁日としてヨーヨー・スーパーボールすくいや輪投げを企画・運営させていただきました。



不來方祭 (10月)

玉こんにゃくを販売しました。学内外のたくさんの方々にご購入いただき、約200本売れました。



研修旅行 (12月)

田野畑村、宮古市、久慈市を訪問し、田野畑村語り部の方々のお話や三陸鉄道の震災学習列車でのお話から震災当時の様子や教訓、復興の様子を学びました。



令和6年能登半島地震 募金活動 (1月)

2024年1月18日～24日の計5日間実施しました。募金総額は42,650円でした。集まったお金は、日本赤十字社「令和6年能登半島地震災害義援金」へ寄付いたしました。

灯来 (3月開催予定)

「岩手と北陸を繋ぐ」と題して、JR盛岡駅前 滝の広場にて、東日本大震災の際の恩返しの気持ちと北陸の方々への追悼、いち早い復興への願いをキャンドルに込めて発信するイベントを予定しています。



5. 彩景プロダクション

報告動画 (岩手大学 公式 Youtube)

彩景プロダクションの活動紹介

活動対象地について

骨寺村荘園遺跡(ほねでらむらしょうえんいせき)

岩手県一関市に位置する国の重要文化的景観です。中世から1000年以上農村景観が変わらず、それを証明する絵図が2枚も現存している唯一の場所です。世界遺産「平泉・中尊寺」と縁の深いこの地域の特色をアピールしつつ、認知拡大に向けて活動を続けています。



活動の様子

令和4年度に設立してから現在まで、多くの地元企業や機関の方々の協力を得ながら活動を行いました。抹茶だれ団子みどりの発売は、その集大成でした。



活動内容

岩手大学生による地域参画

現地で行われる行事に参加したり、歴史文化を学ぶことで地域の特色や魅力の発信に役立てます。他にも地域住民の生業を手伝うことで、実態把握や課題発見に繋がります。



地域PR活動

骨寺村荘園遺跡で収穫されたブランド米を使用した(株)松栄堂とのコラボ商品「抹茶だれ団子みどり」を御旗に、地域PR活動を行っていきます。彩景の活動に興味を持ってもらえるよう、メディアや地域コミュニティへと様々なアプローチを行っていきます。



活動成果

抹茶だれ団子 みどり

岩手っかんめ〜もん!!グランプリ2023で優良賞(農工商連携部門)を受賞。一関市西部に位置する国の重要文化的景観「骨寺村荘園遺跡」で収穫され、毎年中尊寺に献上されているお米「骨寺村荘園米」をふんだんに使用したお団子に、香り高い抹茶蜜を入れた冷凍菓子です。県産牛乳・藻塩も入った、岩手のロマンが詰まったお団子で、若者からご年配まで楽しめる味わいに仕上がっています。フェザンや川徳、各地の道の駅で購入することができます。



今後の予定

骨寺荘園情報ポータルサイトの運営

骨寺村荘園遺跡の情報をまとめたポータルサイトを整備し、情報発信に役立てます。

地域連携の促進、影響力の増大

骨寺村荘園遺跡における営農振興、団体認知の拡大のため、行政/民間団体への活動発信していきます。

6. 岩手大学クラフトビール部①
 報告動画 (岩手大学 公式 Youtube)

土壌調査 県内外への発信

紫波町,陸前高田市,北海道浦幌町,宮城県東松島市で土壌調査を実施

- ・ 全て栽培基準の適性値以内であると判明
- ・ ビール麦栽培による「環境面」の弊害はなし
- ・ RO農法(リジェネラティブ農法)を導入する余地



※土壌採取の様子

AZLMギャラリーでの展示



7月~9月 盛岡市内の(株)manorudaにて
 ネットジェネいわて2023

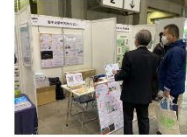


11/19 アイーナにて

いわて酒ノ宴2023inもりおか



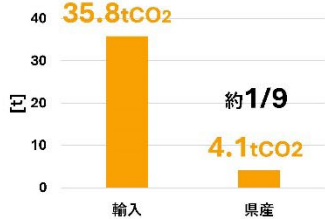
9/30,10/1 もりおか歴史文化会館前にて
 エコプロ2023



12/6~12/8 東京ビッグサイトにて

①.フードマイレージ

ビール麦の県産化による
 Co2排出量の比較



※輸入の場合、ホップはドイツ、麦芽はイギリスから輸入したと仮定
 ※県産の場合、ホップは遠野市、麦芽は陸前高田市から調達したと仮定

ビール原料1t分を県産化すると
 約31.7tのCo2削減

✕ 約17.8人分の削減

※一人当たり(家庭)の年間CO2排出量を1,780kgとして場合
 参考: 全国地球温暖化防止活動推進センター
<https://www.isccc.org/download/65505>

④.農地の活用と農業雇用の創出

農地の活用面積 東京ドーム(敷地面積)
 143,470ha 約3.1万個分に相当

農業雇用

約28,700人/10ha
 (二年三作の輪作として場合)

つなぐビールのメリット
 (ビール麦の県産化)

②.地域経済循環効果(LM3分析)

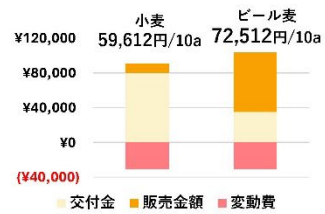
※東北地域におけるビール生産の事例調査データから独自に算出
 ※地域内でビール原料の生産から醸造、販売まで行った場合を仮定
 ※参考: 藤山浩編,2018「循環型経済をつくる」



③.省力化と収益増加
 米生産と比べて10aあたり



小麦と比べて121.6%の収益増加



今後のビジョン

ビール生産に関する研究拠点 (盛岡市)

ビール産地「モルトバレー」
 県内各地にビール麦生産の基盤を形成

ビールを岩手の一大産業に!
 まずは2030年を目標に1%の県産化を達成

県内5地域でビール麦栽培

- ビール麦の集積および加工拠点 (紫波町)
- ビール麦の種子生産拠点 (花巻市)

■岩手県内のビール原料産地

ビールの「消費」を社会への「投資」に変えよう!

飲めば飲むほど「のど」も「地域」も潤うビール!

今年度から瓶での一般販売
 3月6日(水)より(ベアレン醸造所から)販売開始...!

7. 岩手大学クラフトビール部②

[報告動画](#) (岩手大学 公式 Youtube)

2023年度

NEXT STEP工房 岩手大学クラフトビール部の活動紹介

今年は原材料と広報で2つのプロジェクトを行った

原材料部

- ・ビールの醸造
- ・ビジネスエコシステム
- ・製麦設備導入に向けた空き校舎のリノベーション
- ・花巻での種子の供給

広報部

- ・経済分析
- ・フードマイレージ
- ・土壌調査
- ・各イベント参加



ビール麦の県産化に向けた「つなび」連携ネットワーク

ビール原料の県産化に向けた4領域の取り組み

1. ビール麦の地産促進に向けた取り組み

- ・ビール麦生産の支援(作業代行など)
- ・品質の向上
- ・再生型農業の導入に向けた取り組み
- ・種子生産



岩手県紫波町での作業



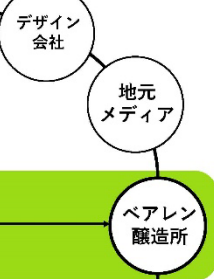
ビール麦の乾燥作業

産学官連携



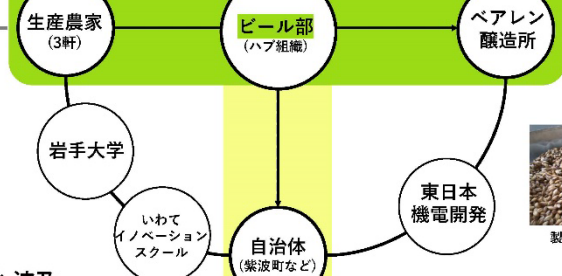
2. ビール麦の地消促進に向けた取り組み

- ・ビール原料の県産化による経済効果等の分析
- ・社会的背景(農地の減少、人口減少など)の説明



地消の促進に向けたメディア(予定)

農商工連携



いわてイノベーションスクールでの活動



紫波町空き校舎の活用

製麦設備の開発

4. プロジェクトのモデル化,波及

- ・活動ノウハウの蓄積と共有
- ・社会課題解決に向けたマニュアル作成
- ※東北イノベーションプラットフォーム登録

3. ビール麦の普及に向けた設備開発

- ・中規模スマート製麦設備の開発
- ・空き校舎を活用したビール麦の加工施設の開発
- ・乾燥設備の導入

今年度のビール生産

ホップ栽培

昨年の地域に加え花巻、高田での栽培地域の拡大

総作付け面積は約3.5ha県内最大の栽培面積に
⇒紫波町で農地活用のリーディングプロジェクトに登録

平石と遠野でホップ栽培の支援
ホップは「つなぐビール」に使用(平石と遠野で実施)



6/18高橋農園での収穫



10/4高橋農園での播種作業



6/10遠野市にて



8. 同じ釜の匂いを食う

[報告動画](#) (岩手大学 公式 Youtube)

岩手大学釜石キャンパス学生による活動報告 2023 NEXT STEP工房 浜のおかあさん達に学ぶ郷土料理勉強会

作成：4年
佐藤 純治

私たちは同じ釜の匂いを食う
2023として今年度は活動して
きました。

4代目となる今年の代は3年
生の積極的な参加だけでなく、
盛岡から2年生や3年生の参
加もありました。来年以降の
活動もしっかりと行っていける
という体しかな手応えを感じる
1年となりました。



みんなで集合写真。なんと今年はテレビ
の取材にもきていただきました！

今年度の活動までは釜石市
内における活動でしたが来年度
以降は盛岡の上田キャンパスと
も連携して活動を行ってけれ
ば良いなと思っています。具体
的には盛岡の学食でのメニュー
提供などを考えています。



↑海鮮韓国料理



↑たこづし



どの料理もとても
おいしかったです！

←たらづし

自分自身は3年生の時からの
活動に参加してきました。その
中で今まで知らなかった食材の
アレンジや裏技などを知れて本
当に楽しかったです。釜石にい
たのは1年半という短い期間で
したが、その中での大切な思い
出のひとつになりました。地元
に帰ってからもこの活動を通し
て学んだレシピだけでなく、浜の
おかあさん達の暖かさを忘れず
に過ごしていこうと思います。



皆さん本当にありがとうございました



9. まちづくりサークル NPCN

報告動画 (岩手大学 公式 Youtube)

まちづくりサークル NPCN 最終報告会

ーさんさ祭りー

☆活動内容s

・ポスター

さんさを周知させるため、ポスター制作を行った。今回は岩手大学の学生をターゲットとして作成した。

・さんさ男子

参加団体の写真をポスターにし、クロステラスに掲示した。さんさは女性がメインとなるが多いため、男性の活躍にスポットを当て紹介した。

・SNS

一か月前からさんさに関する豆知識や参加団体の紹介を行い、カウントダウンを盛り上げた。

・パンフレット

さんさの歴史などの紹介を主とし、さんさ開催場所周辺のお店の紹介も行った。視覚聴覚だけでなく、味覚までも楽しませるようなパンフレットの構造とした。直接配布することで読んでいただく機会を増やせことが良かった。

☆反省点と改善案

・SNS

去年の活動と似た部分が多かったため、目新しさはやや不足していた。来年は新しい取り組みを増やしたい。

・さんさ男子

参加団体が去年よりも少なかった。より早く活動を行うことで、参加団体の増加を促したい。

ーうえだめしー

物価・燃料高騰の影響

上田商店街のお店を知ってもらいたい！

上田商店街と協力
200円でお弁当を
販売

11月末から一週間で
約600個完売

大好評



ーキャンパスイベントー

輪投げ・スーパーボールを行う
老若男女問わず、多くの方々にキャンパスに足を運んでいただくことが出来た。



10. 岩手大学卓球部

報告動画 (岩手大学 公式 Youtube)

2023年度NEXT STEP工房企画最終報告

卓球でつながる！

岩手大学卓球部

目的-卓球を軸に、地域の様々な世代の人々が交流し、健康的で活気あるコミュニティをつくる



1.卓球を通じた地域社会の活性化

成果として、多くの地域住民が卓球に興味を持ち、参加してくれた。イベントを通じて、初心者から上級者まで幅広いレベルの人々が集まり、卓球を通して新たな交流やコミュニティを見つけることができました。また、地域内の卓球施設や公共の場を活用することで、地域全体のコミュニティ結束が強化された。地域住民同士の交流が活性化し、地域の活気が増したと感じている。一方で、課題もあった。まず、イベントの広報が不十分だったこと。一部の地域住民にしか情報が届かなかったため、参加者数が予想よりも少なかったイベントもあった。また、イベントの内容やスケジュールについて、参加者からのフィードバックをもっと積極的に取り入れる必要があると感じた。参加者のニーズや要望に合わせて、より満足度の高いイベントを提供することができるかと考えている。さらに、地域社会全体を巻き込む取り組みが不足していたことも課題である。地域の学校や企業、地域団体との連携を強化し、より多くの人々に卓球を楽しんでもらえるような取り組みが必要だと感じた。地域全体で協力して取り組むことで、より大きな効果を生むことができると考えている。総括すると、今年の活動を通して、地域社会における卓球の普及と交流の促進に一定の成果を挙げることができた。しかし、広報や参加者のフィードバックの取り込み、地域全体を巻き込む取り組みなど、改善すべき点も明確に見えている。今後も地域社会との連携を深めながら、より良いイベントを提供していきたい。



2.高齢者と若者の交流の促進

今年の活動の中で、高齢者とのイベントは7回中1回だった。まず、成果として、高齢者と若者が一緒に参加し、意義深い交流の機会を得ることができた。イベントでは、世代を超えて様々な活動を通してコミュニケーションを回り、互いの経験や知識を共有し合うことができた。特に、高齢者の貴重な経験や知恵に触れることができ、若者たちにとって大きな学びとなった。また、高齢者と若者との交流を楽しんでおり、孤独感の軽減や社会参加の促進につながったと考えられる。しかし、課題としては、高齢者との交流が不十分であったことが挙げられる。1年間にわたって7回のイベントを行った中で、高齢者との交流が1回しか行われなかったことは、その重要性が十分に理解されていなかったことを示している。高齢者との交流は、社会の多様性を尊重し、共生を図る上で不可欠な要素であるため、より積極的かつ継続的な取り組みが求められる。さらに、イベントの内容や形式が高齢者にとって適切であったかどうかについての評価が不十分だった。高齢者の健康状態や興味関心に合わせたプログラムの提供や、アクセシビリティの向上が必要である。また、高齢者がイベントに参加するための交通手段や施設のアクセスも考慮すべき課題である。総括すると、今年の活動を通じて、高齢者と若者の交流の促進に一定の成果が得られたが、その一方で交流の不足やイベントの適切性に関する課題も浮き彫りになった。今後は、高齢者との交流を積極的に取り入れ、彼らの声に耳を傾けながら、より充実したイベントを提供していくことが重要だと考えている。



3.健康増進・生活習慣の改善

今年1年間で7回のイベントを通じて、障害者スポーツである卓球バレーを取り入れることで、「健康増進・生活習慣の改善」という目標に向けて努力した。この取り組みにより、いくつかの成果と課題が浮かび上がった。まず、成果の一つとして、多くの参加者がスポーツを通して健康増進や生活習慣の改善を実感した。卓球バレーはユニバーサルスポーツという特性を生かし、身体的な制約を超えて活動できることに喜びを感じた参加者も多く見られた。陸前高田復興支援の事後アンケートでは、小中学生から「卓球では技術力の差を感じる部分が大いにかこれなら大学生とも互角に戦うことができても楽しかった」との声も上がった。実際に、各イベントの満足度は卓球バレーだけでみると100%を達成し、卓球バレーの有効性を感じた。一方で、課題もあった。まず、卓球バレーとは何かわからない人が多く、広報を見ても興味を持っていただけないという側面があった。また、本来健康増進のターゲットとして狙っていた高齢者とのコラボ先を十分に確保できなかった。今後は、雫石駅前町内会の皆様との交流を実績として、たくさんの地域の方々と交流していきたい。そして、我々が多世代当流の懸け橋となり、地域を盛り上げていきたい。総括すると、卓球バレーを取り入れたイベントを通じて、健康増進や生活習慣の改善に向けた成果を一定程度挙げることができた。しかし、改善すべき点も見えてきた。今後は、これらの課題に対処しながら、より多くの人々がスポーツを通して健康を実感できるような取り組みを行ってきたい。

今年度開催したイベント

<p>●2023年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月9日「第1回企画講習会」 ・8月6日「卓球バレー指導者養成講習会」 ・9月30日「卓球交流会」 ・10月7日「陸前高田復興支援」 ・10月14日「卓球バレー指導者養成講習会」 	<p>●2024年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1月14日「卓球バレー交流会」 ・2月11日「雫石卓球交流会」
--	---

計：7回

●ご協力いただいたすべての方へ
「卓球でつながる」の活動にご協力頂き、本当にありがとうございました。
1年間の活動を通して地域の皆様と交流し、成長することができました。本当にありがとうございました。これからも卓球を軸に、地域の様々な世代が交流し、健康的で活気あるコミュニティをつくることを目指していきます。

岩手大学卓球部代表 田浦充実

岩手大学卓球部

ホームページ



www.rocky.ac.jp

LINE



@0441mwc

Twitter



@Utctclwate

Instagram



Buttcwate

Facebook



岩手大学卓球部

メール: gandaitabletennis@gmail.com
何か質問等ありましたら、公式LINE・メール・DMにてお気軽にご連絡ください。
Twitter(X)/Instagram/Facebookで活動の様子を発信しています！
ぜひフォロー＆いいねで応援よろしくお願いします！

11 / 16

11. LiveStock 研究会

報告動画 (岩手大学 公式 Youtube)



Let's びぎんプロジェクト

教えて! ジャージーさん

~ 実験牛から次世代の畜産へ ~

実験



肥育



と畜



販売・消費



肉牛の育成から消費までを学生が主体となって追うことで、畜産業をはじめ、流通全体を学ぶことを目的としたプロジェクト。岩手大学で飼養されていたジャージー種実験牛を用いて、菊池牧場さんで放牧・肥育飼育をすることにより、持続可能な循環型畜産の実証を目指しています。

菊池牧場 さんについて

夏山冬里方式の酪農が営まれています。
牛乳だけでなく、お肉の加工・販売も行っており、牛乳は毎週自分たちで配達したり、手書きの「菊池牧場通信」を発行したりと、生産者の存在が身近に感じられる牧場です。

<http://kikuboku.com/abouts/>
〒028-4421 岩手県岩手郡岩手町一方井1-256

肉のふがね さんについて

「New Meat Value」というコンセプトのもと、岩手短角和牛の加工肉を販売されています。こちらでもこのプロジェクトのお肉を販売していただけます。

<https://fugane.jp>
工場直営店：〒028-4211 岩手県岩手郡岩手町大字川口5-9-1



12. 環境マネジメント学生委員会

報告動画 (岩手大学 公式 Youtube)



背景

普段の生活では発電を意識する機会が少ない。学生環境団体EMSCを有し、かつ生活の場に近い岩手大学は、エネルギー問題と暮らしを密接に結びつける拠点となり得ると考えた。学生が主体となりキャンパス内で再生可能発電をおこなうことで、エネルギー問題を身近に感じてもらうことを期待する。 — 岩手大学 —



環境やエネルギーと暮らしを結びつける拠点

目的

岩大キャンパス内に風力発電を設置し、岩大生や地域の方々が実体験を通して再生可能エネルギーについて学ぶ場にする

垂直軸型風力とは

風車の回転軸が地面に垂直な風力発電の種類。Ex) サボニウス型、ダリウス式などプロペラ型に比べ、必要なスペースが少ない、騒音が少ないなどの利点がある。

サボニウス型 →
円筒を切って組み合わせたような形



上から見た図



展望

目標：キャンパス内に設置

- 羽根の形状を改善し発電効率を向上させる
- 製作した発電機を用いた体験型ワークショップ

活動内容

羽根設計・作製

3Dプリンターを使って設計・製作をおこなっている。サボニウス型を基本に、オリジナルな形を設計した。羽根部分をねじることで、表面積の拡大と風を受ける方向の自由度を高めることを目指した。







あそまなびSTEAMPARK in はなまき

花巻でおこなわれたイベントに出展。プロペラの風で羽根を回しLEDを光らせる体験では、多くの方々に興味を持って頂き、実体験が与える影響の大きさを実感した。





エコプロ2023

東京でおこなわれた環境イベントに出展。他大学や企業との交流を通し、活動成果を発信した。また、高効率モーターをご紹介頂くなど新たなアイデアの獲得の機会となった。



風力調査

学内で発電することを目指し、風力調査を実施。≥3.0m/s程度で発電を開始し、LEDの点灯を確認した。中央食堂前でおこなったため、調査のときに興味を持ってくださる方も。



環境マネジメント学生委員会 EMSC : emsc@iwate-u.ac.jp

13. GANDAI HOMESPUN

報告動画 (岩手大学 公式 Youtube)

GANDAI HOMESPUN

～ 岩大ひつじの毛を紡ぐ～



活動目的

1. 岩大ひつじの毛を使うこと

岩手大学農学部内では羊が飼育されていて、羊好きの学生たちが毎日お世話をしています。羊たちは冬の寒さをしのぐため、モコモコと、ちょっと油分のある毛で覆われています。そして暑くなる前に、毎年、人の手で毛刈りをします。羊たちが作ってくれた羊毛をぜひとも活用したい。そんな思いから、毛刈り、そして糸紡ぎまでを学生たちで行いました。

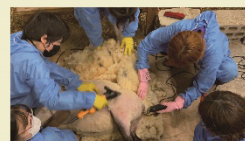
2. ホームスパンを若者に広めること

ホームスパンとは、羊毛を素材として手紡ぎ糸で作られた手織りの布のことです。羊毛を洗うところから、染め、糸紡ぎ、織り、仕上げまで全て手作業で行うため、熟練した技術が求められます。岩手県では、その技術が今日まで絶えず受け継がれてきました。しかし残念なことに、「ホームスパン」という名前自体を知らない若者も少なくありません。そこで、学生主体で魅力を発信することで知名度向上に貢献したいと考えました。

活動実績

毛刈り

毛刈りの時は羊専用バリカンを使います。毛を掴んで引っ張るのではなく、皮膚を引っ張りシワをのばすようにして刈るのがポイントです。脂分が多いため、バリカンの刃は頻りに変える必要があります。

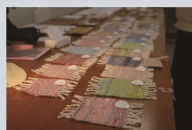
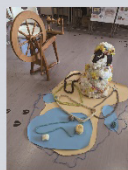


制作、大学祭での展示と販売

羊毛洗いや羊毛染め、糸紡ぎ、織り、仕上げまでの工程すべてを学生で行い、コースターを制作しました。今回はほとんどのメンバーが初めて紡いだ糸でコースターを制作しましたが、色とりどりで羊毛の表情がよく分かる仕上がりでした。

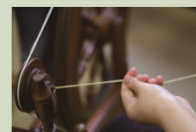


大学祭では、ホームスパンに関する展示やコースターの販売、糸紡ぎの実演などを行いました。教室の装飾にもこだわり、「どうすればお客さんにホームスパンの魅力を知ってもらえるか」を考え、展示の配置を工夫しました。

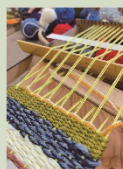


外部との関わり

「いわての手しごと展覧会」に出展。これまでの活動紹介や、糸紡ぎの実演などを行いました。



Looms さんにて、ワークショップのお手伝い。子どもたちの発想力に驚かされ、たくさんの刺激を受けるいい機会になりました。



岩手大学紹介テレビ番組「ガンダイニング」にも取り上げていただきました。右の QR コードから動画を視聴できます。(岩手大学公式 Youtube チャンネルのリンクが開きます)



14. 工学 GRILS

報告動画 (岩手大学 公式 Youtube)

サイエンス教室を通じた理科教育の推進



工学GIRLS 2023年度活動報告



工学GIRLSとは

工学GIRLSとは、岩手大学理工学部
の女子学生約25名で活動する団体である。
リケジョを増やすこと、より女子
学生の過ごしやすくなるよう、理工学部
の環境を改善することを目的とし、
2011年に結成された。

主な活動内容は小学生向けのサイエンス
教室、オープンキャンパスでの女子
高生向けの相談会の実施である。



サイエンス教室

【都市鉱山由来の金箔入りスノー ドーム作り】

都市鉱山について知ってもらうこと、
今後積極的にリサイクルしてもらえ
るよう実施した。

としこうざん 都市鉱山ってなんだろう？

都市(とし) みんなが住んでいるところ 鉱山(こうざん) 金などの、宝くがある場所

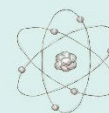
都市鉱山(としこうざん)とは、みんなが持っている、
スマホ、パソコン、ゲーム機などの中にある
「金」を採って、すぐなるのではなく、
もういちど金として使おうというリサイクルのこと。

スマホやパソコンのどこに金があるの？

このような板が、きあいの中に入っ
ています。この板の、いるいるなごころ
に「金」が、いるなごころがあります。

スマホ(スマホ) スマホの中にある金(きん)を採って、すぐなるのではなく、もういちど金として使おうというリサイクルのこと。

パソコン(パソコン) パソコンの中にある金(きん)を採って、すぐなるのではなく、もういちど金として使おうというリサイクルのこと。



長崎県壱岐市

壱岐市は自治体で最初に「気候非常
事態宣言」を発出するなど、環境やエ
ネルギーについて、非常に高い意識を
持っており、国から全国10の地域の中
のSDGs未来都市・モデル事業の一
つに選定されている。また、壱岐市に
は大学が無く、子ども達は大学生と触
れあう機会がほとんどないため、大
学生と環境について考える機会是非常
に新鮮な体験にもなると考えられる。

今回その取り組みを学び、岩手県で
の導入可能性を検討するとともに、サイ
エンス教室を通し理科教育の推進を
目的とし、同市を訪れた。



国際会議

11月に壱岐市で行われた、エコマテ
リアル学会の国際会議にて、上記のサイ
エンス教室の内容を含む、以下3つの
テーマについてポスター発表を行った。

『理系女子学生のための環境整備に向
けた取り組みと課題』

『サイエンス教室の現状と今後の課
題』

『壱岐市の環境への取り組みと盛岡市
の課題』

国際会議を通し得た知見をもとに、
環境問題の改善を視野に入れ、今後も
理科教育の推進に積極的に取り組む。



15. さんもり

報告動画（岩手大学 公式 Youtube）

令和5年度地域課題解決共創事業『One+（ワンプラス）』採択事業

さんもり活動報告

浅野奈美、及川凌平、遠藤光晟、小関駿之介、小室祐人、佐藤光翼、澤田聖吾、鈴木貴紀、本間圭織、山上綾太、山下怜奈



さんもりとは？

- 岩手大学でまちづくりなどを学んでいる学生で構成された団体。2023年7月発足。
- 名前の由来は「盛岡のぬくもりで盛り上げる」の3つの「もり」。

今年度のテーマ

- テーマ
＜盛岡城跡公園の機運醸成＞
- 活動プログラム名
積み上げよう！盛岡城アート
- 関係機関
盛岡市公園みどり課、肴町商店街組合、盛岡歴史文化館、城跡公園周辺の市内の幼稚園・小学校などの方々にご協力いただいた。



活動の目的

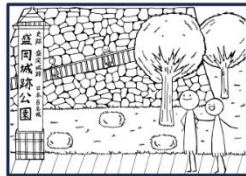
- 盛岡城跡公園の機運醸成
- 盛岡市民に対する盛岡城跡公園への興味関心の向上。
- 石垣をはじめとする盛岡城跡公園が持つ魅力を再発見する機会の創出。
- 市民と共に事業を行うことで、盛岡市民が持つ「ぬくもり」を可視化。

①盛岡城アート事業

- 内容
盛岡城跡公園に関するアート作品を市民から募集し、2回の展示期間を設けて展示。

＜募集について＞

- 募集期間
2023年10月10日～12月10日
- 募集作品
①盛岡城跡公園での思い出の絵
②当団体で用意した塗り絵
③盛岡城跡公園で撮られた写真
- 募集対象
盛岡市在住の全市民



＜展示について＞

- 日程、場所
2023年11月28日～12月3日（肴町商店街）
2023年12月16日～12月17日（プラザおでって）
- 展示の様子
作品は約300作品集まり、二つの展示期間合わせて、延べ200人以上の方に足を運んでいただくことができました。

肴町展示では、テレビ岩手に取材してもらい、テレビ中継を通じて展示の様子を幅広い人に見てもらうことができました。



②石で意思を積む事業

- 日程
2023年10月28日（土）
石垣修復工事現地説明会
- 場所
盛岡城跡公園
- 内容
石垣に使われている栗石を用い、市民の方と共にさっちゃんのモザイクアートを作成。
- 当日の様子
説明会に来た子どもから大人まで多くの方に一緒に取り組んでもらった。地域の人と交流しながらモザイクアートを通じて栗石についてどのようなものなのかを知ってもらうことができた。



活動プログラム参加者の声

- 子どもと気軽に参加できて盛岡への「好き」が深まる良いイベントだと思いました。
- 素敵な企画をありがとうございました。子供たちも楽しそうに城跡について話してくれたので、家族も興味を持ってました。
- 子供たちの自由な発想が見られて楽しかったです。また機会があればいいなと思います。

活動の成果

- 本プロジェクトを通じて、幼稚園児や小学生など、普段は盛岡城跡公園のことをあまり考える事がない世代の人に対して考えてもらうきっかけを作ることができた。
- 盛岡城跡公園を媒体に行政や、市民の方々、本プロジェクトに関わっていただいた方々と交流できた。
- 人それぞれが持つ地域の愛着や夢をアートを活用して可視化することで、身近な魅力の再発見につなげる事ができた。

今後の展望

- 参加者が幼稚園児・小学生などの若年層に偏ってしまったため、より多様な世代の方に取り組んでもらいたい！
- 盛岡城跡公園で行われるイベントにも団体として参加させてもらい、当団体の事業の認知度を高めたい！
- アンケート調査により、当団体の事業が盛岡城跡公園の機運醸成に果たした役割を明らかにしたい！

SNSはこちら！

当団体は来年度以降も、活動する予定です。今後の活動をSNSで随時更新していくので興味を持っていただけた方は各種SNSご確認ください！



instagram



X (旧Twitter)